



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
12月の休館日：1月・8月・15月・22月・29月～31月
※年始は、1月4日(日)から開館します。

12月18日(木) 18:30～
ロマンティック・ラブコメディ「月の輝く夜に」
☆出演：大地真央、岩崎大、上條恒彦 ほか
指定 S席 6,000円、A席 4,000円
【好評発売中】

12月21日(日) 14:00～
第11回 ひこね市民手づくり演奏会
今回は趣向を変えて、マーラーの偉大な交響曲「復活」と、フォーレの「レクイエム」全曲に挑戦します。
自由 2,000円(当日2,500円) 【好評発売中】

12月23日(火祝) 13:30～
お楽しみコンサート「クリスマス」
☆クリスマスの曲がいっぱいつまったコンサート。
☆小山陽子さん(フルート)、半澤真衣さん(ヴァイオリン)、西村光世さん(ピアノ) 【鑑賞無料】

1月25日(日) 14:00～
オペラ物知り講座 in ひこねvol.2 -椿姫-
☆観客席から見ただけではわからないオペラの成り立ちや秘密を、生の演奏とさまざまなエピソードや解説を織りまぜながらハイライトで楽しむ講座です。
自由 1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】

2月1日(日) 14:00～
財団設立30周年記念・井伊直弼と開国150年祭記念
「いい歌、いい舞、いい話 彦根今昔物語」
☆彦根の歴史や文化をテーマに物語を構成・演出！市民文化団体の出演による彦根文化の祭典！
自由 500円 【11月16日(日)発売開始】

2月11日(水祝) 15:00～
エコメモリアル・チェンバー
オーケストラ演奏会
☆戸澤哲夫さん(コンサートマスター)
自由 大人2,000円 18歳以下1,000円(当日:各500円増)
【12月7日(日)発売開始】

2月28日(土) 15:00～
及川浩治トリオ「Bee」(びー) コンサート
☆及川浩治さん(ピアノ)、石田泰尚さん(ヴァイオリン)、石川祐支さん(チェロ)による究極のトリオパフォーマンスをご堪能ください！
指定 3,000円 【好評発売中】

マーク：託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク：公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
12月の休館日：25日(木)～同31日(水)、※22日(月)～同24日(水)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

12月4日(木)～12月22日(月)
「新収蔵の資料」
一受贈・購入作品からー
近年、寄贈を受けた作品と購入作品の中から、彦根藩士家に伝来した甲冑・書画・書状・城下町の古文書など、彦根ゆかりの作品を紹介します。
梅田賢 日下部晴鶴筆

ギャラリートーク
「新収蔵の資料一受贈・購入作品からー」
12月6日(土) 14:00～15:00
解説：本館学芸員 高木文恵
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

直弼のころ
幕末の大老、井伊直弼(1815～1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。
このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

12月2日(火)～12月21日(日)
重要文化財
河西精八郎宛 井伊直弼書状
直弼による居合の新流派創設の様子を伝える手紙

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
12月の休館日：2(火)・9(火)・16(火)・24(水)・25(木)・29(月)～31(水)
※年始は、1月4日(日)から開館します。

6日(土) 14:00～15:00
トランポピクス教室
講師 田附孝子さん(日本トランポピクス協会 公認インストラクター)
場所 ひこね市文化プラザ 第1リハーサル室
対象 小学生以上(家族での参加を歓迎します)
定員 25人(先着順)
申込方法 前日までに、市民体育センター窓口で申し込んでください。
参加費 1人500円
持ち物 運動のできる服装、体育館シューズ



慶雲院屋敷の図面
この家の特殊性は、2つの側面を持つことである。藩士の木俣守嘉を当主とする家である一方、慶雲院の由緒による別の側面がありました。木俣家の記録によると、同家は井伊の苗字を名乗り、家紋は井伊家の橘紋をアレンジした菱中橋、守嘉は慶雲院に婿入りしたとあります。実際、彼女は藩から井伊一族としての扱いを受けています。

この家の特殊性は、2つの側面を持つことである。藩士の木俣守嘉を当主とする家である一方、慶雲院の由緒による別の側面がありました。木俣家の記録によると、同家は井伊の苗字を名乗り、家紋は井伊家の橘紋をアレンジした菱中橋、守嘉は慶雲院に婿入りしたとあります。実際、彼女は藩から井伊一族としての扱いを受けています。

写真の作品は、テーマ展「新収蔵の資料」で、12月4日(木)～同22日(月)まで展示します。(会期中無休)
慶雲院は、天明4年(1784)、86歳で死去しました。没後、その御殿の大半は藩へ戻すことになり、屋敷地は半減します。慶雲院の特別な存在は、彼女一代限りだったのです。
当時の社会は、男性が当主となる建前でしたが、実際には、実情にあわせてさまざまな例があったのです。(彦根城博物館学芸員 野田浩子)

彦根城の内堀と中堀の間には、江戸時代、上層藩士の屋敷が建ち並んでいました。その一角、現在の大手門前広場西半分は、井伊家の姫君の御殿がありました。
彼女の名は慶雲院(けいうんいん)(1699～1784)。藩主井伊直興(井伊家4代)の娘です。幼名は鉄姫。彼女は、4歳で筆頭家老の木俣家の次男と婚約しますが、彼が早世したため、そのいとこ

にあたる守嘉が家老家の養子となり、彼女と縁組しました。慶雲院とは、晩年に出家しての通称ですが、ここでは、この名前を統一して使います。
正徳4年(1714)、二人の婚礼に際して、藩から大手前の屋敷と知行千石が与えられ、家老家とは別に新たな家が創設されました。この屋敷の図面が先ごろ発見されました(写真)。

中央部に建ち並ぶそのほかの棟が慶雲院の御殿です。御書院・御居間など部屋に付く「御」という敬称が、藩主の娘という格の高さを示します。実は、この屋敷や家の存在は、類のないものでした。慶雲院の姉妹で、ほかの藩重臣に嫁いだ人は、既に屋敷・知行のある家に嫁ぎ、藩士家の妻として扱われています。

に陥っていました。5代・6代が相次いで急逝したため、4代直興が再度藩主となり、正徳4年、直興が再隠居するとともに、息子の直定を分家させて「彦根新田藩」を立てました。慶雲院の婚姻も同年であり、彼女を井伊一族の扱いとしたのも、後継者に苦慮した直興のとった策の1つと言えます。実際、一族の越後与板藩主井伊家では、当主が19歳で急逝したため、慶雲院の息子が同家の養子となり、家を継ぎました。

分家をたてた姫君―慶雲院とその御殿―

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



第148回